

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第 26 号—



今回みつかった柱穴と根石

おおてごもん はちのへじょうあと 大手御門を発見か!? ～八戸城跡～



大手御門の位置「古御殿御絵図面」(『八戸城の建築』より一部抜粋)

八戸城跡の発掘調査で幅 2m・長さ 7m の溝と、長辺約 2m の柱穴が 2 個みつかりました。柱穴からは深さ 1.6m のところで石が 2 個みつかり、柱を支える根石と考えられることから、穴を掘って柱を立てる構造物があったことがわかりました。文政 10(1827) 年の「古御殿御絵図面」に描かれている大手御門と位置がほぼ一致することから、江戸時代の八戸城跡の大手御門と考えられます。

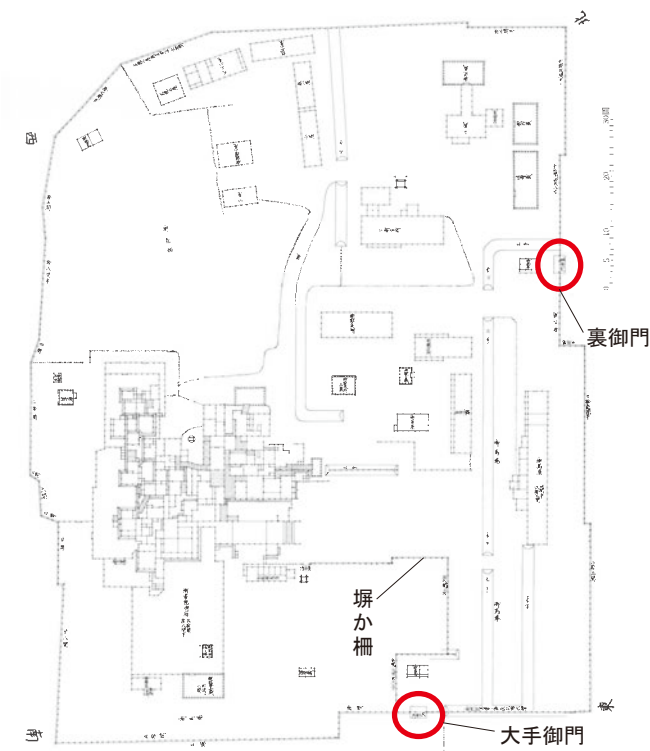
門跡からは瓦などが出土しておらず、当時の詳しいようすはわかりませんが、今後みつかった根石などについて調査を進めていく予定です。

(次頁へ続く)

八戸城跡は、馬淵川右岸の沖積低地に突き出た標高約 20m の段丘北縁に立地し、北側がその段丘崖となっています。これまで、52 地点の発掘調査が行われており、近世城郭期の遺構のほかに、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代の遺構・遺物が確認される複合遺跡です。

八戸城は、盛岡藩主南部利直の時代に築城されたと伝えられています。寛文 4 (1664) 年、八戸藩成立後は藩主の居城として定められ、明治 4 (1871) 年の廃藩置県の後には廃城となるまで、八戸藩主の居城・藩庁として機能したとされています。

本丸があった場所は、現在神社や公園、宅地となっており、八戸市庁から南部会館、竈神社等があるあたりが二ノ丸であったと考えられています。本丸は東西約 150m、南北約 200m で、四方を土塁と堀に囲まれており、南側に大手御門、東側に裏御門があったとされています。



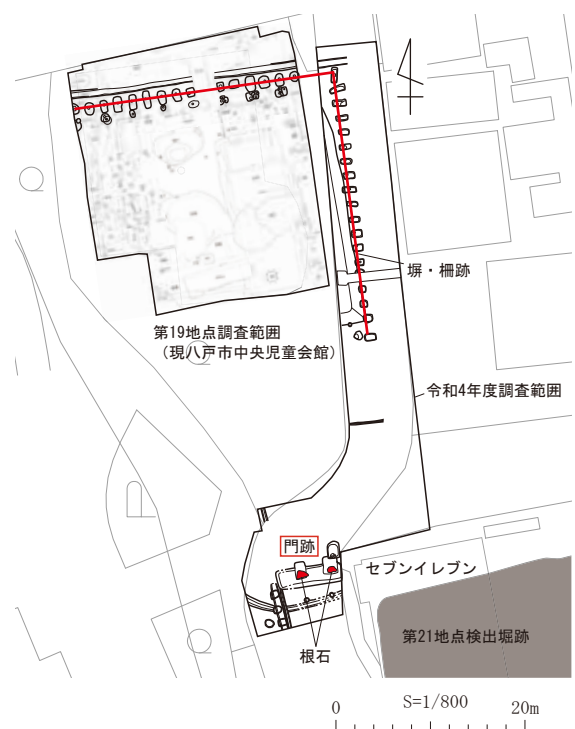
「古御殿御絵図面」(高島成侑(1981)『八戸城の建築』より)

門跡のほかに、1m × 50cm の同規模の柱穴が、1.5m 間隔で 19 個みつけられました。直径 15cm ほどの柱の跡がみつかったものもあり、塀または柵の跡と考えられます。また、柱列西側で、柱穴一つおきの間隔で控柱とみられる柱穴も確認されました。この柱列は、大手御門から入り本丸御殿へ向かう通路に建てられていた塀または柵の跡と考えられます。

今回の発掘成果と絵図面をあわせて考えると、大手御門周辺の可能性が高いことがわかりました。(山田 貴博)



塀跡(西から)柱穴が均等に並んでみつけられました。



八戸城跡遺構配置図



縄文時代の^{たてあな}竪穴建物跡や^{もりどいこう}盛土遺構を確認～一王寺遺跡～^{いちおうじ}

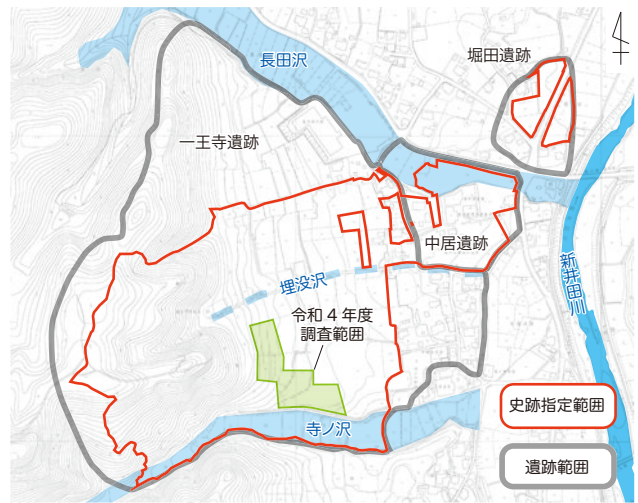
一王寺遺跡は中居遺跡・堀田遺跡を含む「史跡是川石器時代遺跡」のひとつで、令和元年度から継続して、遺跡南側の遺構分布を確認するための調査を行っています。

これまでの調査によって、遺跡南側には、遺跡中央を流れる埋没沢と遺跡南端を流れる寺ノ沢に挟まれた小規模な舌状台地（下図■部）があったことがわかってきました。

小舌状台地の上では、縄文時代前期から後期までの竪穴建物跡や掘立柱建物跡などがたくさんみつかり、主に建物を建てる空間として使われていた可能性があります。また、丘陵に近い斜面では貯蔵用のフラスコ状土坑が複数みつかり、貯蔵のための空間として利用されたと考えられます。

小舌状台地の北側と南側は斜面となっており、ここでは貝塚や土器などの遺物が多量に出土する盛土遺構（下図●●●部）がみつかります。盛土遺構からは、縄文時代前期中葉から中期中葉ごろまでの土器や石器が出土し、堆積土の中にはクリなどの炭化材や焼土、イノシシなどの獣骨が含まれていました。

以上のことから小舌状台地の南北の斜面は、遺物を含む土砂の堆積によって少しずつ埋まり、縄文時代中期中葉ごろまでには現在のような地形になったと推測されます。（宇庭 瑞穂）



一王寺遺跡調査範囲位置図



寺ノ沢側の盛土遺構 遺物出土状況（南から）



遺跡南側の地形模式図（■ 小舌状台地地形（推定） ●●● 盛土遺構範囲）

縄文時代の集落～松ヶ崎遺跡～

松ヶ崎遺跡は、新井田川とその支流の松館川に挟まれた標高約27～45mの台地上に立地する、縄文時代中期を中心とした市内最大規模の集落跡です。現在発掘調査中の第11地点は、遺跡のほぼ中心に位置しており、令和元年度から継続して発掘調査を行っています。

調査区西側の広い範囲で、多量の遺物を含む盛土遺構が見つかりました。規模は東西約28m×南北約38mで、縄文土器や石器のほか、土偶や石棒などの祭祀に関わる遺物や、獣骨や炭化材、クルミなどの炭化種子も出土しています。盛土遺構のみが見つかった場所は、元々やや凹んだ地形だったと推測され、そこに遺物を含んだ土砂が堆積していき、マウンド状に盛り上がったと考えられます。

縄文時代の竪穴建物跡は、調査区西側に集中してみつかりました。時期は縄文時代中期中葉の円筒上層d式ごろが主体で、規模は長辺約1.6～5.5mまでで、直径2m未満の小型のもの

が多いです。竪穴建物跡の中には、火事などで焼けた痕跡のあるものも複数みつかりました（SI77a 竪穴建物跡など）。

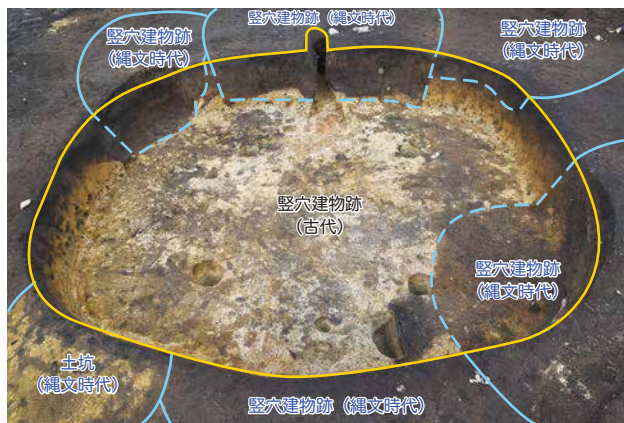
調査区西側では、竪穴建物跡や土坑などが複雑に重複しているものが多いことから、この周辺が縄文時代中期の集落の中心的な場所だった可能性があります。（宇庭 瑞穂）



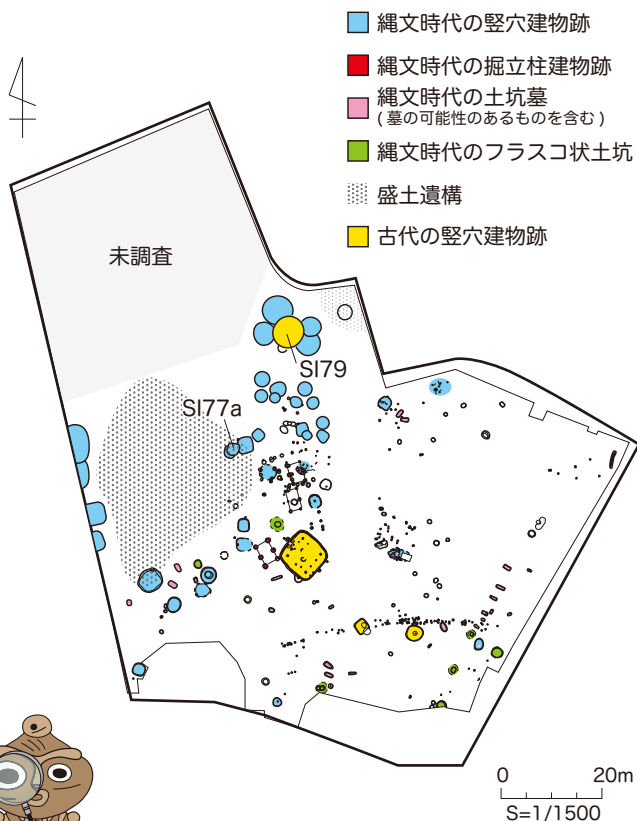
盛土遺構 遺物出土状況（南東から）
マウンド状にやや盛り上がった場所（盛土遺構）から、多量の遺物や炭化材、獣骨などが出土しています。



SI77a 竪穴建物跡 炭化材出土状況（南東から）



SI79 竪穴建物跡（南東から）
古代の竪穴建物跡（—部分）が、複数の縄文時代の遺構（- -部分）を壊すようにして建てられています。



松ヶ崎遺跡第11地点遺構配置図



ま べちがわ ささのさわ
馬淵川北岸の古代集落～笹ノ沢(6)遺跡～

笹ノ沢(6)遺跡は、八戸市中心部から北西約5.5kmの、馬淵川と五戸川ごのへがわに挟まれた標高70m前後の丘陵に立地し、馬淵川へと合流する沢頭の周辺に位置しています。工業団地の開発に先立って、令和3年度から4年度にかけて発掘調査を行いました。

調査の結果、古代の集落跡がみつかりました。みつかった堅穴建物跡のうち、12棟が奈良時代、2棟が平安時代のもものとみられます。堅穴建物跡は時期によって違いがあり、奈良時代のものは一辺3～6mの方形で、北側の壁の中央に煮炊き用とみられるカマドが設けられています。一方、平安時代のもものは一辺3～4mの方形で、東側の壁にカマドが設けられています。

特に大きな成果は、奈良時代のカマドがほぼ完全な形で確認されたことです(SI4 堅穴建物跡)。カマドの規模は、高さ45cm・幅60cm・奥

行き40cmで、上部に土器を火に掛けるための穴が開いており、正面に火を焚く部分が作られています。また、上部の穴付近の壁にも粘土が貼り付けられていることがわかりました。さらに、カマドを作る際に石や土師器はじきを芯材として粘土を積み上げていることもわかりました。

奈良時代の堅穴建物跡からは、煮炊き具や食器として使われた土師器のほか、鋤先すきさきや鎌かまなどの農耕に関わる道具が出土しました。このことから、笹ノ沢(6)遺跡には農耕を生業とする人びとが暮らしていたと考えられます。

笹ノ沢(6)遺跡の近隣には、ほかにも奈良時代の堅穴建物跡がみつかった遺跡がいくつかあり、周辺の遺跡の調査成果との比較から馬淵川北岸の丘陵上での集落の移り変わりなどを明らかにしていきたいと考えています。

(上ノ山 拓己)



笹ノ沢(6)遺跡遺構配置図
この地点では、奈良・平安時代のほかにも、縄文時代にも人が住んでいたことがわかりました。

【凡例】

■	縄文早期の堅穴建物跡 (SI)
■	縄文後期の堅穴建物跡 (SI)
■	奈良時代の堅穴建物跡 (SI)
■	平安時代の堅穴建物跡 (SI)
■	土坑 (SK)
■	落とし穴 (溝状土坑) (MP)
□	遺跡範囲



奈良時代の堅穴建物跡 (SI4)

一辺約4mの方形の住居で、床の上から焼けて炭になった木材が多くみつかったことから、最後は焼失したと考えられます。



カマドの断面 (SI4)

史跡是川石器時代遺跡の整備に向けて - 建物の撤去と調査④ -

八戸市では、是川石器時代遺跡を将来にわたって生涯学習や観光などの拠点、憩いの場として活用していく「是川縄文の里」の整備を進めています。令和元年度から、縄文時代の風景へ戻すために史跡内の建物撤去工事を行いました。

令和4年度は、中居遺跡で昭和49年に建築した旧八戸市歴史民俗資料館の地下部分と復元竪穴建物2棟の解体と、ソメイヨシノやツツジといった縄文時代には生えていなかった樹木の伐採を行いました。今後は、遺構保護のために盛土を行った後、縄文時代のムラの景観を復元する工事が始まります。

※中居遺跡は現在工事のため立入禁止となっています。イベント時の見学ツアーなどで限定公開する予定です。

(船場 昌子)



復元竪穴建物の解体



建物基礎の解体工事のようす



建物解体後の調査のようす

令和4年度是川遺跡出土品保存修理事業

「青森県是川遺跡出土品」は、平成23年度に330点が重要文化財に追加指定されました。この中には、漆製品や木製品のように状態が変化しやすいものや、修理や補強が必要なものがあり、継続的に修理を行っていく必要があります。令和4年度は、土器5点、漆製品10点、石製品2点、骨角製品8点の保存修理と保存台作成を行いました。

このうち、漆製品1点は、昭和38年に重要文化財に指定された籃胎漆器（漆塗りのカゴ）です。過去の修理で保存台を作成していますが、改めてクリーニングし、資料に負担が少ない保存台に作りかえました。修理前には、肉眼観察のほかにX線撮影を行い、外から見えないヒビなどが細かい確認しています。

保存修理を行うことで、出土品が本来の姿によみがえるとともに、安定した状態で展示などの公開・活用ができるようになります。今後も文化財を未来に伝えていくため、保存修理を続けていきます。

(船場 昌子)



壺形土器（左：修理前、中央：樹脂充填後、右：修理後）

特別展「行きかう土器とヒトー是川縄文館・弘前大学共同研究展示ー」開催！

開催期間：令和4年7月16日（土）～9月4日（日）

是川縄文館では、大学などの研究機関と共同研究を行い、その成果を展示や刊行物として公開しています。特別展では、平成30年度～令和3年度に弘前大学大学院と行った共同研究の成果をもとに、八戸地域の縄文時代から平安時代の土器からみた文化のうつりかわりと地域間交流について、出土品194点を展示して紹介しました。

今回の研究のカギとなるのは、土器をつくった粘土に含まれている火山ガラスの分析です。土器の中の火山ガラスを分析し、噴出元の火山を調べることが、その土器がどこの地域でつくられたのかを解明する手がかりとなる、新しい研究手法です。

展示は、①是川縄文館と弘前大学の共同研究、②火山ガラスと土器を調べる、③縄文時代の土器と交流、④縄文晩期の土器とヒトの移動、⑤弥生～古墳時代の土器と交流、⑥飛鳥～平安時代の土器と交流、⑦弘前大学の研究活動の7章で構成しました。

会期中には、共同研究者の弘前大学大学院関根達人教授による講演会を開催し、目に見えない火山ガラスが解き明かす、ダイナミックなヒトの動きは、多くの方に新たな研究の面白さを伝える機会となりました。
(船場 昌子)



会場ようす



東北から北海道に移動した土器たち



よく似た土器

(左：中居遺跡出土、右：北上市大橋遺跡出土)

今日何食べる？ 秋季企画展「食と縄文人」開催！

開催期間：令和4年10月8日（土）～11月20日（日）

狩猟採集の暮らしをしながら1万年以上定住生活をおくった縄文人。彼らはどんなものを食べて命をつないできたのでしょうか。八戸地域の遺跡の出土品を中心に、重要文化財16点、模型・レプリカ20点を含む271点を展示しました。

展示では、縄文人が食べ物を得るために必要な工程に沿って、①縄文の食を探る、②とる、③ためる、④たべる、⑤縄文の食を追うといった5つのテーマで構成しました。動植物遺存体や、狩猟具、調理道具等の出土品のほか、魚介類のレプリカや、縄文時代から食べられている食材の郷土食模型を展示し、視覚的にも楽しめる内容としました。

会期中開催した講演会では、堅果類の乾燥保存技術が縄文時代に誕生し、現代まで伝承されていることや、堅果類のアク抜き方法を学び、自然のなかで生きた縄文人の暮らしに思いをはせる機会となりました。
(落合 美怜)



会場ようす



キノコ形土製品と現代の食用キノコ模型



郷土食模型（しだみ団子）



令和4年度 八戸市内発掘調査一覧

遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (m ²)	種別/主な時代
新井田古館遺跡①/ 新井田古館遺跡第33地点	試掘調査/ 本発掘調査	分譲住宅建築	R4.4.6/ R4.9.12~15	7.5/ 37.5	集落跡、城館跡/縄文、奈良、平安、中世、近世
新井田古館遺跡②	試掘調査	分譲住宅建築	R4.4.6	5.5	集落跡、城館跡/縄文、奈良、平安、中世、近世
雷遺跡隣接地①	試掘調査	個人住宅建築	R4.4.7	13.0	散布地、集落跡/縄文、奈良、平安、近世
野馬小屋遺跡①/ 野馬小屋遺跡第1地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	R4.4.11・12	64.0	散布地/縄文、弥生
千石屋敷遺跡隣接地①/ 千石屋敷遺跡第9地点	試掘調査/ 本発掘調査	個人住宅建築	R4.4.12/ R4.5.17~30	5.7/ 71.1	集落跡/縄文、中世、近世
田面木遺跡隣接地①/ 田面木遺跡第61地点	試掘調査	切土造成	R4.4.12~14・19	21.4	集落跡/縄文、弥生、奈良、平安
中道遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R4.4.14	12.2	遺物包含地/縄文
新井田古館遺跡③/ 新井田古館遺跡第35地点	試掘調査	個人住宅建築	R4.4.18	11.55	集落跡、城館跡/縄文、奈良、平安、中世、近世
田面木遺跡②	試掘調査	擁壁築造	R4.4.20	19.5	集落跡/縄文、弥生、奈良、平安
大久保(1)遺跡①	試掘調査	個人住宅建築・土留	R4.4.25	12.7	散布地/縄文
古文中寺遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R4.5.9	7.5	散布地/縄文
雷遺跡②/ 雷遺跡第14地点	試掘調査	宅地造成	R4.5.9~6.16	584.0	散布地、集落跡/縄文、奈良、平安、近世
法堂林遺跡隣接地①	試掘調査	個人住宅建築	R4.6.22	6.0	集落跡/縄文、奈良、平安
酒美平遺跡①/ 酒美平遺跡第20地点	試掘調査/ 試掘調査	個人住宅建築	R4.7.21/ R4.8.4~9	8.5/ 11.5	集落跡/縄文、飛鳥、奈良
新井田古館遺跡④/ 新井田古館遺跡第34地点	試掘調査	個人住宅建築	R4.8.22~24	16.9	集落跡、城館跡/縄文、奈良、平安、中世、近世
田面木遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	R4.8.23	24.0	集落跡/縄文、弥生、奈良、平安
市子林遺跡①/ 市子林遺跡第26地点	工事立合/ 試掘調査	宅地造成	R4.6.21~8.8/ R4.8.24	240.0/ 16.5	集落跡/縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世
市子林遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R4.8月25日	4.5	集落跡/縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世
新井田古館遺跡⑤	試掘調査	個人住宅建築	R4.10.18	1.5	集落跡、城館跡/縄文、奈良、平安、中世、近世
松長根遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R4.11.16・17	5.0	散布地/縄文
市子林遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	R4.11.25・28	11.0	集落跡/縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世
市子林遺跡④	試掘調査	個人住宅建築	R4.12.7	9.0	集落跡/縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世
田面木遺跡④	試掘調査	個人住宅建築	R4.12.8	12.0	集落跡/縄文、弥生、奈良、平安
沢里山遺跡①	試掘調査	個人住宅建築・道路舗装工事	R4.12.9・13	11.0	散布地/縄文、奈良、平安
市子林遺跡⑤	試掘調査	個人住宅建築	R4.12.10	0.4	集落跡/縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世
上ノ沢遺跡①	試掘調査	個人住宅建築・擁壁設置	R5.2.21	10.0	散布地/縄文、奈良、平安
田面木遺跡⑤	試掘調査	個人住宅建築	R5.2.28	8.0	集落跡/縄文、弥生、奈良、平安
市子林遺跡⑥	試掘調査	個人住宅建築	R5.3.7	9.5	集落跡/縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世
鳥河岸(1)遺跡①	試掘調査	携帯電話無線中継基地局設置	R5.3.7~10	24.0	散布地/縄文、奈良、平安、中世、近世
酒美平遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R5.3.14~16	26.0	集落跡/縄文、飛鳥、奈良
松ヶ崎遺跡第11地点	本発掘調査	長手作付け	R4.6.9~12.13 R5.3.7~28	2,200.0	集落跡・貝塚/縄文、奈良、平安
一王寺遺跡	確認調査	史跡内容確認	R4.5.6~8.8	340.0	集落跡/縄文、弥生、奈良、平安、近世
田面木遺跡第60地点	本発掘調査	配水管布設工事	R4.6.27~7.8	84.0	集落跡/縄文、弥生、奈良、平安
八戸城跡第54地点	本発掘調査	道路改良工事	R4.9.1~10.26	480.0	集落跡、城館跡/縄文、弥生、古墳、奈良、平安、近世、近代
笹ノ沢(1)遺跡	本発掘調査	工業団地開発	R4.4.4~8.1	7,135.0	散布地/縄文、平安
杉子沢(1)遺跡	本発掘調査	工業団地開発	R4.4.4~8.1	7,662.0	集落跡/縄文、平安
笹ノ沢(6)遺跡第1地点	本発掘調査	工業団地開発	R4.6.1~9.6	1,190.0	集落跡/縄文、奈良、平安
笹ノ沢(6)遺跡第2地点	本発掘調査	工業団地開発	R4.6.1~11.22	2,879.0	集落跡/縄文、奈良、平安
笹ノ沢(4)遺跡	本発掘調査	工業団地開発	R4.8.22~11.30	7,500.0	集落跡/縄文、奈良、平安



《調査事務局》(令和4年度)

八戸市教育委員会
 教育長 伊藤 博章
 教育部長 石亀 純悦
 教育部次長兼教育総務課長 鈴木 伸尚
 是川縄文館長 工藤 朗
 副館長 松橋 広美
 《埋蔵文化財グループ》
 参事(埋蔵文化財GL) 渡 則子
 主査兼学芸員兼社会教育課主査兼学芸員 横山 寛剛
 主査兼学芸員 田中 美穂
 主事兼学芸員 上ノ山 拓己
 主事兼学芸員 宇庭 瑞穂
 主事兼学芸員 山田 貴博
 発掘専門員 小笠原 善範
 発掘専門員 宇部 則保
 事務員 荒川 直美
 《縄文の里整備推進グループ》
 副参事(縄文の里整備推進GL) 小久保 拓也
 主 幹 石塚 昌範
 主 幹 番沢 裕子
 主 幹 船場 昌子
 主事兼学芸員 落合 美怜
 主事兼学芸員 佐藤 ちひろ
 主 事 関根 柔和
 主事兼学芸員 菊地 智慧
 主事兼学芸員 大野 亨
 事務員 下沢 雅代
 事務員 栗谷川 恵美
 事務員 是川 祐子
 事務員 鈴木 麻琴

《令和4年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書
 第182集 田面木遺跡第60地点
 第183集 八戸市内遺跡47
 第184集 一王寺遺跡概報

掘りday はちのへ 第26号

発行年月日 令和5年6月19日
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館
 〒031-0023
 青森県八戸市大字是川字横山1
 TEL 0178(38)9511
 E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp
 ホームページ https://www.korekawa-jomon.jp
 印刷 大東印刷株式会社

印刷部数：1,000部 印刷経費：一部あたり98.45円

